

令和5年3月定例会一般質問

通告2

質問 山田洋次監督の記念館開設に向けて

答弁 現時点では開設の考えはありません

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。このたびは3点の質問を準備いたしました。1点目でございます。

山田洋次監督の記念館開設に向けて質問させていただきます。

昨年12月の一般質問で、今後開設される郷土館において、中標津をロケーションに多くの映画を撮影されている山田洋次監督に関する記念ブースの開設を準備することを可能とするような、デジタルを含む情報の収集について教育委員会に提起して、非常に前向きな答弁をいただきました。

一方で、もし記念館のような施設を構想すると、御本人はもとより関係企業等の理解や協力を得なければならず、その方面においては教育委員会の事業では及ばないというニュアンスの答弁でありました。私もこの任を担うのは総務部の企画担当のメンバーが町長の意向を受けて行わなければ成立しないと考えます。

そこで町長にお尋ねいたします。我が町をロケーションとする映画を監督は数多く撮影し、この地の広大な景観とともに、人の誠実で優しい生き様を世に送り出しています。古くは家族、釣りバカ日誌ファイナル、高倉健主演による、遥かなる山の呼び声があったにもかかわらず、阿部寛、常盤貴子主演によるリメイクと、それに続く、続遥かなる山の呼び声を自ら脚本を書き起こして作品とされた山田洋次監督。彼の思いや事績を町民はもとより、この地を訪れる観光客や未来の子どもたちに伝えていくことは我が町の大切な使命ではなかろうかと考えますがいかがでしょうか。

中国北東部、旧満州で少年期を過ごした監督、その故郷によく似たとも言われる我が町中標津町、ここではずっと過去に人間の条件や戦争と人間のような壮大な映像も撮られています。ぜひ、この遥かなる山の呼び声シリーズを世に送り出されたことを御縁として、この際、山田洋次監督の我が町に寄せられている思いについても、後世の人々へのメッセージとして残すために働きかけをなさるときだと提起いたしますが、町長の思いをお聞か



してください。

【答弁：町長】

松村議員御質問の山田洋次監督の記念館開設に向けてについて御答弁申し上げます。

昨年秋に放送されました、NHK・BSプレミアムドラマ、続遥かなる山の呼び声が日本映画を代表する山田洋次監督の原作・脚本によって本町を舞台に製作されたことは、コロナ禍にあって久々に明るい話題であり、本町にとっても大変喜ばしい出来事でありました。放送前の特集番組では、山田監督自らが出演され、53年前に別海町在住の元酪農家との出会いから、1980年に公開された映画、遥かなる山の呼び声の誕生秘話や今回のドラマ続編へとつながる一貫した酪農家の物語に対する思いが語られており、当地域に対する深い愛着を感じたところであります。

山田監督は遥かなる山の呼び声のほかにも、1970年に公開された家族や国民的映画の男はつらいよ、釣りバカ日誌など、これまで本町を舞台とした多くの作品を手がけられています。当時の記録を見ますと、いずれも町を挙げての撮影協力とともに、山田監督やスタッフ、町民との絆を感じることができる交流やエピソードがあったようです。

今回のドラマ制作にあたっては、そのような山田監督と地元の方との交流や監督自身の思い入れがあって、本町での撮影が実現したとお聞きしています。

御質問のありました山田洋次監督の記念館開設については、12月定例会での一般質問において教育長が答弁しましたとおり、監督御本人の意向はもとより、制作会社をはじめとした関係各社の御理解、御協力がなければ実現することは難しく、現時点で記念館を開設する考えはございませんが、松村議員が言われるとおり、日本映画の巨匠である山田監督が様々な想いを込めて、本町を撮影地として選んでいただいていることは大変光栄なことであり、我が町の自慢であることは間違いありません。

私としましても、将来にわたって町民はもとより、観光で訪れる方々や将来を担う子どもたちに伝えていくことができればと考えており、まずはこれまで山田監督が本町にもたらした事績を形として後世に伝える方法や手段について模索してまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

質問 開陽台育成牧場会計年度任用職員の通年雇用について

答弁 他部署で横断的な雇用の可能性を探ってまいりたい

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。2点目の質問でございます。開陽台育成牧場会計年度任用職員の通年雇用について質問いたします。

過日、中標津町により開陽台育成牧場の会計年度職員の募集の記事が北海道新聞に掲載されていまして。現下の人不足状態において、夏場だけの牧童の仕事について募集をかけたとして、どれだけの応募があるものだろうかと思うのですが、過去にも採用した方が翌年には応募してくれず、新たな採用を繰り返している状況ではないでしょうか。尾崎豊町長の時代に始まったこの開陽台育成牧場事業を今後も継続、発展させるためには若手の経験豊富なスタッフをどれだけしっかり配置できるかは重要な視点であろうと考えます。

そこで提案いたしますが、綿羊の通年飼育は採算がとれるように思います。道内では士別のサフォークや多和平が有名ですが、昨年北海道開発局石狩建設部で河川の堤防に綿羊を放し、雑草処理を実現してさらに肉の販売も手掛けるとの報道に接しました。

我が地域にあっては約60年前には綿羊が飼育され、年老いた羊は食用となり、いわゆる溝の切れたジンギスカン鍋で濛々と煙の上がる中で羊肉とネギを焼いて食べたものでした。

今日、ニュージーランド等から輸入されてくる羊肉は100グラム当たり300円に近く、豚肉や牛肉を上回っている状態であり、この傾向は今後も続くと思われます。中標津の食文化はおいしいものを腹一杯食べられるというところであり、それはF1牛の生産でも実現しています。もともと綿羊はウールの原料であり、そこに北方圏の衣料に関する文化も花開き、さらに昔ながらのジンギスカン鍋を開陽台で提供できるとして、多様に観光産業を後押しできる可能性があります。ぜひ検討をなさってはいかがでしょうか。

【答弁：町長】

2問目であります開陽台育成牧場会計年度任用職員の通年雇用について御答弁申し上げます。

中標津町営牧場につきましては、畜産振興を推進するために設置しておりまして、乳牛飼養農家等の労働力の軽減、飼料コストの低減と、あわせて放牧することにより十分な運動量を確保し、強靱な足腰の形成やけがの予防、疾病への抵抗力をつけることなどを目的

に、例年5月中旬から10月下旬頃まで預託を受けているところでございます。

会計年度任用職員制度につきましては、1会計年度の期間で任用される非常勤職員の制度でありまして、町営牧場の会計年度任用職員につきましては、令和5年度においてはフルタイムの職員を4名募集したところ、募集人数を超える応募があり、過日採用者を内定したところであります。

議員御指摘のとおり、今後も町営牧場を継続、発展させるためには、若手の経験豊富な人材確保は重要な視点ではありますが、町営牧場における通年雇用におきましては、前段で御説明いたしました性質上、現時点において夏季における牛の放牧事業のみであることから難しい状況ですが、他部署において横断的に雇用することの可能性もあわせて探ってまいりたいと考えております。

また、議員御提案の綿羊の通年飼育につきましては、現状、町営牧場においては、草地はすべて牛の預託放牧で使用されていることから、綿羊の飼育可能なスペースを確保することが難しい状況であるということと、綿羊に関する飼養管理や繁殖など技術・経験がないことから、現状では可能性が低いと判断しておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

質問 オール電化公住の暖房費について

答弁 入居者が生活にお困りの場合は相談も受けています

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。3点目の質問でございます。オール電化公住の暖房費についてお尋ねいたします。

オール電化住宅の暖房費が高騰し、生活を圧迫している状況を耳にいたします。旭第二団地のオール電化公住に住まわれる方々からは切実な声が聞こえてまいります。東日本大震災以前、北海道でも泊原子力発電所がフル操業を続けており、深夜電力などが灯油と比べて単価的にそれほど違わないときに、議会としても高齢のお年寄りたちに安全な暖房を提供しようと通電制御型の電気パネルヒーターの設置に積極的に旗を振った責任があることを深く自覚した上でこの質問を準備しております。

さて、安全な暖房と申しました。灯油FFストーブはその構造上、発生した熱を機外に放出するため対流ファンを内蔵し、3年も使用すると綿埃が周辺に大量に付着し、放置すると過熱して故障の可能性があります。パネルヒーターはシンプルな構造で裏のフィンの

間に埃が付着しても自身で掃除機を使って簡単に掃除できることが大きなメリットになると考えたのです。その時点では原発が停止してこのように火力発電による電気代が高騰するとは想像できなかったのであります。

しかし、オール電化公住に住む住民には、ほかに暖房の選択肢がありません。この結果、大枚をはたいて電気代を払わざるを得ない状況に立ち至っています。北電の従量電灯の単価は基本料を別として、灯油の約3倍ちょっとと試算されています。それが通電制御の体系であったとしても2倍ぐらいで、灯油250リッターを暖房に使う旭ふれあい団地、東9条の交番に隣接する公住と比較すると5万円を超えていくことになります。これに給湯代とIHヒーター、それに照明やテレビなどの電気代が加算されます。

国民年金の受給者は、食料品の高騰も続く中、なけなしの貯金を崩して生活している実態が見えてきます。彼らには選択肢がないのです。そして、これはこれからさらに高騰していく予定です。

町長、これを入居時の自己選択による自己責任だと言い切ることは、あの当時のこの状況を推進した議員の1人として私にはできません。彼らには独力でこの状況に対処する力がありません。しかし、中標津町にはあります。同等の性能である旭ふれあい団地のFFストーブとの比較や住民の意向調査を開始して、さらなる高騰に対して対応の研究をすべきと考えますが、いかがでしょうか。

【答弁：町長】

3点目の御質問でありますオール電化公住の暖房費について御答弁申し上げます。

旭第二団地は、建設当時の産業建設常任委員会から、灯油と比較しても光熱費に大きな差がなく、特に御高齢に安全だとして推奨され採用した経過がございます。

松村議員の御質問の中にある暖房設備のメンテナンス性とそれに伴う故障の低減、給排気トラブルによる不完全燃焼事故、火傷や火災の危険要因が低く、安全性の高さは確かなものであると認識しているところです。

御質問のFFストーブとの比較及び入居者意向調査などの研究とございますが、当時、安全性及び電気料金と灯油と比較して差が少ないという判断のもと整備して今に至ったことを考慮すると、今後継続して電気料金が値上げされるのか、また、石油が高騰するかという見極めが非常に困難な状況にありまして、FFストーブとの比較はエネルギー情勢の変化により同じような議論を繰り返すことが予想されます。

また入居者意向調査は、現時点で灯油の方が安価であるため調査せずとも結果は見えております。入居者に対し公平な条件となるべく、7棟76戸すべての暖房設備を更新して

も、またエネルギー情勢の変化により方針が転換した場合、その投資が無駄になる可能性も考えられます。さらに、この団地に限定して改修するための公費投入の是非についても議論が必要となると思われます。

町営住宅に限らず、町民皆様の経済的御負担が厳しい中、エネルギー動向が不確定で長期を見据えた方針を検討するには情報量が余りにも少なく、この団地だけの調査研究することはいたしかねますが、入居者が生活にお困りの場合は相談も受け付けております。暖房費含め電気代の高騰はすべての町民の皆様の生活にかかわることから、国の動向を注視してまいりますので御理解を賜りたく存じます。